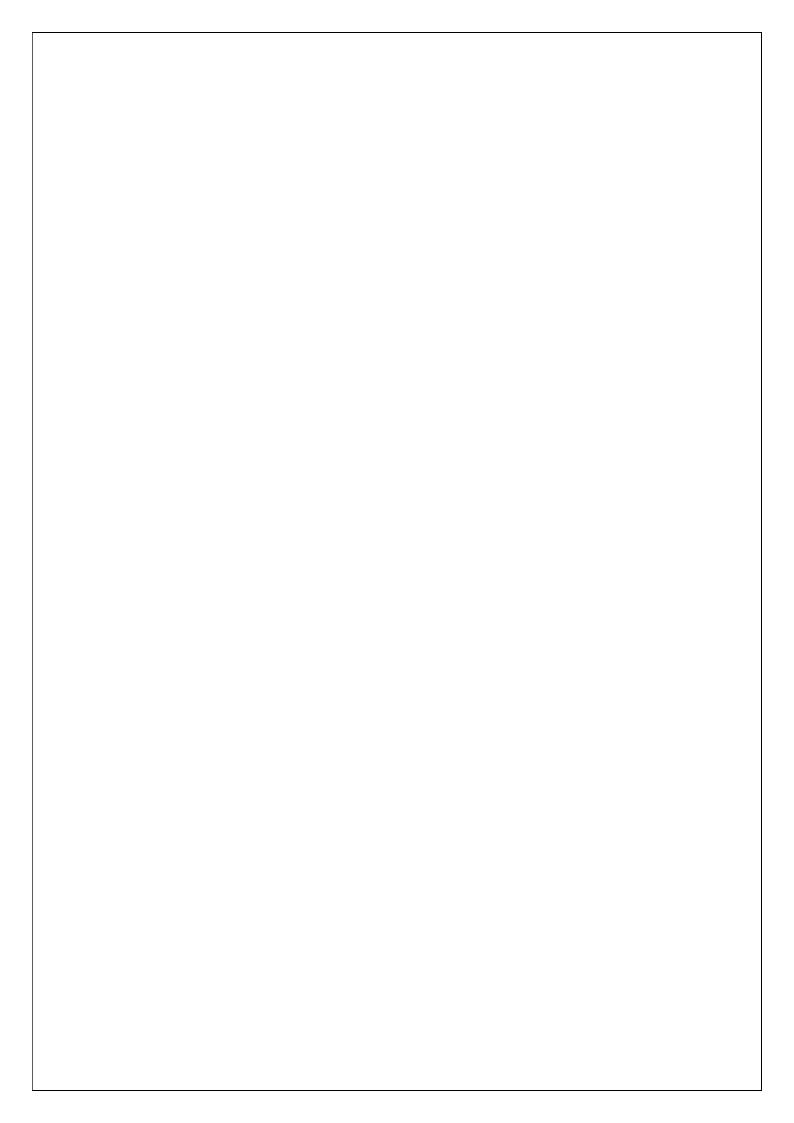


毎月勤労統計調査特別調査

調査票の記入要領

令和6年8月

厚生労働省



目次

I	ì	調食票の記人要領早見表	1
Π	i	調査の対象と調査票について	3
	1	毎月勤労統計調査特別調査について	3
	2	調査票の提出	3
	3	毎月勤労統計調査特別調査の対象となる事業所について	3
	4	調査の対象となる労働者の範囲	3
Ш	訓	墹査票の記入について	9
	1	記入上の一般的注意	9
	2	調査票の記入の仕方	9
	3	調査票各欄について	9
		事業所情報に関する事項	10
		1 事業所名	10
			10
		3 調査期間はいつからいつまででしたか。	16
		4 調査期間末日の常用労働者数は何人でしたか。	16
		- Manager Anti-Astron. As the track has been been been as a second of	
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。	16
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 17
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 17 18
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 17 18
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 17 18 19 21
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 17 18 19 21
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 17 18 19 21 21
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項 1 氏名又は符号 2 性 3 通勤・住込みの別 4 家族労働者であるかどうかの別 5 年 齢 6 勤続年数 7 出勤日数 8 1日の実労働時間数 9 きまって支給する現金給与額	166 177 177 177 188 199 211 211 221
K7		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 17 18 19 21 21 21 22 24
		5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 17 18 19 21 21 21 22 24 25
	: [[[[[]	5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 18 19 21 21 21 22 24 25
	: [[[[]] 1 2	5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号をOで囲んでください。 常用労働者に関する事項 1 氏名又は符号 2 性 3 通勤・住込みの別 4 家族労働者であるかどうかの別 5 年 齢 6 勤続年数 7 出勤日数 8 1日の実労働時間数 9 きまって支給する現金給与額 10 昨年の8月1日から今年の7月31日までに特別に支払われた現金給与額 財査票の記入を終えて 内容の確認 調査票の提出	16 17 17 17 17 18 19 21 21 22 24 25 25
	[[[] [] 1 2 3	5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。 常用労働者に関する事項	16 17 17 17 18 19 21 21 22 24 25 25 25

調査票の記 (記入の

略称や通称等でなく正式な事業 所名を記入します。

電話番号は市外局番から記入し ます。

様式第5号(第9条関係)

事業所名

1

統計法に基づ

毎月勤労統計

(令和

每勤漬物本店

(電話)

調査年を記入 します。

具体的に記入します。

製造業なら製品の用途と完成品か部 品か、製造か修理かを、サービス業 ならサービス内容を、販売業なら商 品名と小売か卸売かを記入します。

符号を記入し、かつ常用労働者 の符号を記入した欄の番号を○ で囲んでください。なお、符号の 代わりに氏名を用いてもかまい ません。

主要な生産品又は事業の内容は何ですか。 (主要なものとは、総収入の最も多いものです。)

漬物製造小売

3 調査期間は、いつからいつまででし 終給与締切日の翌日から7月の最終給 か月間です。)

6 月26 日から

常用労働者について 記入してください。

常用労働者とは、期間を定めずに、又は1か月以上の期間を定めて雇われて

1 氏名又は符号	2 性		3 通 勤 住 ジ の	<u>、</u> み 別	であ	労働者るかかの別	5 年	龄	6 勤続年数
	男	女	通	住	家族	家族 以外	1年末 捨てて	₹満の こくだ	端数は切りさい。
A	1	2	1	2		2	7	8	60
B 2	1	2	1	2	1	0	61	•	45
C (3	1	2	1	2	1	0	38	•	5# 5
D 4	1	2	1	2	1	2	19	}	0 45₽

(注) 住込みとは、家族労働者であるかどうかを問わず、事業所の構内又は事業主の住宅内に居住

備 考 面接者氏名

※印欄は記入しないでください。 この調査は、統計法に基づく基幹統計を作成するために行う調査です。 この調査の対象となった事業所の方々には統計法に基づく報告の義務があり、報告の拒否や虚化 この調査の実施に当たっては、特に必要がある場合には、資料の提出のお願いや関係者の方々/

家族労働者とは、事業主の配 偶者、三親等内の親族及びそ の配偶者をいいます。

入要領早見表

ポイント)

く基幹統計調査

調査特別調査票





年 7 月 分)

厚生労働省 ※産業分類番号

都道府県 号 調查区番号 事業所一連番号 0000 $\Delta \Delta$ \times \times \times

たか。(6月の最 手締切日までの1

4 調査期間末日の常用労働者数は何人でしたか。

企業(同一会社に属するすべての事業 所)の全常用労働者数は、何人ですか。 該当する番号を○で囲んでください。

д**Д 5**пѣт

4 1

(1) 30人以上(2) ~29人(3) 1~4人

本社、本店をはじめ、支社、支 店、営業所、工場、出張所等で 働いている常用労働者を全部合 計したものによって記入します。

いる者をいいます。

次の者は除きます。 ○事業主又は法人の代表者 ○無給の家族従業者

7 出勤日数 1日の実労働 (1) 時した数と、合いでは、一で日で日本を表して有めた。 含だないはくだないではくだいい

問 (7月の働し、 (7月の記さ間を記さ間を (7日の記さ間を (7日の記さ間を (7日の記さ間を (7日の記さいは (7日の記さい きまって支給する現金給与額 (毎月同じように支給される 給与(税込み)で、残業手当 を含みます。)

昨年の8月1日から今年の7月 31日までに特別に支払われた現 金給与額(夏季又は年末の賞与、 3か月を超える期間で算定され る給与、ベースアップの差額治 給分及び変給事由の発生が不確 実な給与の総額(税込み)です。 毎月きまって支給する給与は含 みません。)

(100円未満は四捨五入してください。)

В	A. A. P. C.	百万	拾万	57	8	8	百万	拾万	75	7	百円
14	7		\$	8	8	0		/	0	0	0
24	85 9		2	9	8	0	1	3	5	0	0
20	5			7	8	0		/	0	0	0
20	8		/	1	5	0					0

昨年8月1日から今年7月31日 までに、一時的又は突発的理由 に基づいて、労働者に現実に支 払われたもの、あらかじめ支給 条件算定方式が決められている 給与でも、算定が3か月を超え る期間ごとに行われるもの、支 給事由の不確定なもの、過去に さかのぼって算定された給与の

追給などを記入します(100円 未満四捨五入)。年収ではない ことに注意してください。

とし、常態として食事の提供を受けている者をいいます。

太郎

調查票作成

統計調查員印 月 日

事業所の担当者氏名を記入しま す。

↑報告については罰則があります。 ▶の質問を行うことがあります。

調査票作成年月日を 記入します。

7月中の通常の日の労働時間が異なる場合 は、調査期間中の平均の1日の労働時間数 を記入してください(残業も含みます)。 (1時間未満の端数は、30分以上は切り 上げ、30分未満は切り捨て)。

調査期間中に算定される基本給、地域給、 能率給、家族手当、職務手当、時間外勤務 手当等あらかじめ支給が定められている給 与で、所得税その他を差し引く前の総額を 記入します (100円未満四捨五入)。

調査期間中に実際に就業した 日数を記入します。

1時間でも就業すれば1日と 計算します。

Ⅱ 調査の対象と調査票について

1 毎月勤労統計調査特別調査について

この調査は、厚生労働省が都道府県を通じ、常用労働者を1~4人雇用する事業所を対象に年1回行う調査で、国民経済計算(GDP 統計)の作成に使用される等、行政施策の企画・立案に役立てられています。

この調査は、国の行う重要な調査で、統計法に基づき調査対象事業所の方に 調査票の提出義務が課せられた「基幹統計調査」として実施するものです。調 査対象事業所につきましては、統計理論に基づき、一定の方法によって選定し た調査区に所在する常用労働者を 1 ~ 4 人雇用する全ての事業所で、原則、毎 年7月31日現在について調査いたします。

<u>調査票に記入された事項については、統計以外の目的に使用したり、他に漏</u>らしたりすることはありません。

2 調査票の提出

調査票は、令和6年9月10日までにご回答ください。

3 毎月勤労統計調査特別調査の対象となる事業所について

この調査は、常用労働者を常時1~4人雇用する事業所の状況を把握することを目的とする調査です。常用労働者が0人又は5人以上の場合は、回答不要です。

※ <u>同居の家族労働者のみの事業所の場合、常用労働者数はO人となり、調査</u> 対象外となります。

なお、この調査の対象となる常用労働者は<u>貴事業所で雇われて働いている</u> 労働者のみであり、調査する事業所が属する会社・企業・団体全体の労働者 については対象となりませんので、ご注意ください。

ここでいう事業所とは、経済活動の場所的単位であり、一つの経営主体のもと、一定の場所で、継続的に、何らかの経済活動を行っている場所のことで、例えば、工場、鉱山、銀行、会社、事務所、商店などはもちろん駅、変電所、パチンコ店、病院、駐車場、税理士事務所、旅館、料理店、理髪店、美容院、喫茶店、飲食店、浴場、クリーニング店、映画館、学校、寺院、神社など一区画を占めて事業を行っている場所はすべて事業所とします。

4 調査の対象となる労働者の範囲

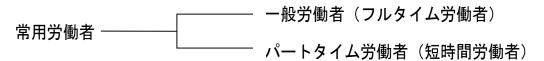
貴事業所に雇われて働き、給与の算定を受ける者のうち、次のいずれかの

条件を満たす者です。この条件に該当する労働者を「常用労働者」と呼びます。

- ① 期間を定めずに雇われている者
- ② 1か月以上の期間を定めて雇われている者

常用労働者とは、正規従業員だけのことではありません。常時使用する者という意味で臨時のアルバイトのように、短期間(雇用契約期間1か月未満)勤める者でなければ、常用労働者となります。(※但し、家政婦や船員法に基づく船員は調査対象となりません。)

〇常用労働者(調査対象とする労働者)に含める者



○常用労働者に含めない者

日雇い労働者

臨時労働者(雇用期間が1か月未満の労働者)

雇われていない者(事業主、社長(取締役社長、理事長))

派遣されてきた労働者

船員法に基づく船員 等

なお、常用労働者として調査対象となるかならないかの判断基準を、以下のアーカのとおり掲載しておりますので、それぞれご参照ください。

ア 重役・役員、工場長、支店長

取締役、監査役・理事などの重役・役員や工場長、支店長であっても、労働時間が管理され、その時間に対して給与の算定を受けている場合は調査対象となります。(※但し、使用者(取締役社長、理事長)は調査対象から除きます。)

イ 事業主の家族

事業主の家族で、無給で働いている労働者は調査対象ではありません。

また、貴事業所で雇用されている労働者全員が、事業主と同居し、生計を一にする家族であるときは、形式上、賃金の支払いがあったとしても、調査対象ではありません。一方、事業主と同居する家族であっても、事業所で雇ってい

る「家族以外の労働者」と同様に事業主の指揮命令に従って勤務し、給与の算 定基準も同様である場合は、常用労働者に該当し調査対象になります。

事業主の家族については、「4 家族労働者であるかどうかの別」(18 頁)に 照らして労働者とするか判断してください。

ウ 委任、請負

顧問弁護士・税理士、経営コンサルタント、産業医、校医などは、①事業主の指揮監督下ではなく、専門的な知識によって自身の判断で仕事を行うこと、また、②事業主との契約も委任、請負又はそれに準じる場合が多いことから、基本的に労働者とみなしません。

しかし、当人が達成した成果に対応する報酬(成果報酬)ではなく、労働時間や日数に対応する賃金を支給されている場合には該当となります。(この場合は、名称にかかわらず労働者となります。)

保険の外交員、株式売買の営業社員、電気・ガス会社の集金員など完全歩合制の場合も、その名称にかかわらず、事業主と実質的に使用従属関係がある (労働時間や日数が管理され、それに対する賃金が支払われている等)とみなされる場合は該当となります。

工出向者

他企業から出向してきている者は、貴事業所の事業主の指揮監督下にある場合は、原則として貴事業所の労働者とします。このとき、出向者に支払われる賃金の負担者が、出向元であるか、貴事業所の事業主であるかは問いません。

逆に、別の企業に出向し、出向先事業所の使用者の指揮監督下にある者は、 たとえ賃金を貴企業の事業主が負担していても、貴事業所の労働者には計上 しません。

才 派遣労働者

労働者派遣法に規定する派遣労働者については、派遣元事業主との間で雇用 関係があり、派遣先とは指揮命令関係があっても、雇用関係はありません(労働者派遣法第2条)ので、貴事業所に派遣されている派遣労働者は貴事業所の 労働者には含めません。<u>貴事業所が労働者派遣事業を行っていて、派遣労働者</u>が常用労働者に当てはまる場合は、貴事業所(派遣元)の労働者に含めます。

カ 長期休暇をとっている者など

病気・療養・育児その他の理由で、事業所に出勤していない労働者は、<u>給</u> 与が算定され、支払いの対象となっている場合のみ対象とします。

また、通常の給与が支払われていなくても、社会保険料などの本人負担分を 会社が負担していて、その返還の義務がない場合は、負担分を給与の一部とみ なし、対象とします。

※労働者としての籍はあったとしても、<u>支払われる金銭が労災保険や健康保</u> <u>険など社会保険の給付金のみである場合は、労働者に含めません</u>。

常用労働者と

	従 業 者 の 種	類	常 用(O) 非常用(×) の別
労常働	雇用期間を定めずに雇われ、働いている者		0
者用	1 か月以上の雇用期間を定めて雇われ、働いて	こいる者	0
非常用労働	役員 ①常E 役 員 (1)般の常用労f	いずれも満たしている 時勤務している ②一 動者と同じ給与規則あ 基準で毎月の給与が算 る	0
働者 者と	(2) (1)に該当し	ない役員	×
に分かれる者	家族労働名 個人経営事業所では個人 事業主、法人組織事業所 では実質的にその法人を 代表する者(通例は社長)	いずれも満たしている ①事業主と世帯を同計を共にしている ② 労働者と異なる基準でされている	×
	の家族(配偶者、3 親等 内の親族及びその配偶者) (2) (1)に該当し	,ない家族労働者	0
	日々の契約で雇われている労働者 1 か月未満の雇用期間をきめて雇われている党	×	
	法人組織の事業所において実質的に法人の代表 (普通の場合は社長)	×	
非常	個人企業の事業主 (個人経営の事業所における事業主です)		×
用 労	給与の支給額が算定されなかった労働者 調査期間中に全く給与の支給額が算定されなか	いった労働者です)	×
働 者	家族従事者 (主に家事の仕事に従事している者)		×
	派遣されてきた労働者		×
	船員法に基づく船員		×

_____ (注) いわゆるパートタイム労働者も、上記の基準により常用労働者と非常用労働者に区分

非常用労働者区分表

值	Ė	考
7月の最終給与締切日現在で事 も常用労働者とする。 名称のいかんにかかわらず常用		払われていれば出勤していなくて
小規模の事業所では、常用労働)者として調査対象となる	役員の例も多いため注意する。
家族労働者の取扱いについては	て、18頁を参照。	
事業主と生計を別にしているか いる家族労働者のことです。	、又は一般の常用労働者	と同様の基準で給与が算定されて
	·代表するものでも上記役	:員(1)に該当するものは、常用労
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	 の欠勤などで、7月分の	給与が支給されていない労働者の
ナね 却処世間だったロバしたじ曲		

され、契約期間が1か月以上など常用労働者に区分される者はこの調査の対象となる。

Ⅲ 調査票の記入について

1 記入上の一般的注意

- ① この調査は、原則として7月分(給与締切日が定められているときは6月 の最終給与締切日の翌日から7月の最終給与締切日までの1か月分)につ いて調査します。
- ② 調査票の記入が終わったら、「調査票確認事項」(25~26頁) に基づいて確認を行ってください。
- (③) 数字は、すべて0、1、2、…のように算用数字を用いてください。
- 4 特別に支払われた現金給与額など、該当するものがなかったときは、必ず 「O」を記入し、空欄のまま残さないようにしてください。
- ⑤ 調査票の記入は必ずペンかボールペンを用い、青又は黒で明瞭に書いてく ! ださい。
- ⑥ 記載誤りは、誤った箇所に赤で二重線を引き、その上の余白に正しい値を 記入してください。

2 調査票の記入の仕方

1~2頁の「調査票の記入要領早見表」を参考に作成してください。 早見表で分からない点や疑問が生じた点については、以下に調査票各欄に ついての詳しい説明がありますので、そちらをご参考の上、ご記入ください。

3 調査票各欄について

調査票右上欄について



事業所番号、産業分類番号、企業規模番号

「事業所番号(都道府県番号+調査区番号+事業所一連番号)」は、あらか じめ記入してお配りします。また、「産業分類番号」及び「企業規模番号」 の各欄は空欄となっていますが、貴事業所での記入は不要です。



事業所情報に関する事項

- 〇「事業所名」
 - 1 事業所名

事業所の正式名称を記入してください。

(電話番号)

貴事業所の電話番号を市外局番から記入してください。

○主な生産品又は事業、調査期間、常用労働者数の各欄

	2 主要な生産品又は事業の内容は何ですか。 (主要なものとは、総収入の最も多いものです。)	 調査期間は、い 終給与締切日の翌 か月間です。) 	つからいつまで 日から7月の景	でしたか。 終給与維切	(6月の最 旧までの1	4 調査期間末日の常用労 働者数は何人でしたか。	5 企業 (同一会社に属するすべての事業 所)の全常用労働者数は、何人ですか。 該当する番号を○で囲んでください。	
		Я	日から	Я	日まで	Д	(1) 30人以上 (2) 5~29人 (3) 1~4人	ì
i								ì

|2 主要な生産品又は事業の内容は何ですか。|

事業所では、事業活動をすることで、何らかの財貨又はサービスの提供を 行っていますが、<u>貴事業所におけるその提供物の名称、サービスの内容など</u> の事業の具体的な内容について、以下の点を参照の上、記入します。

(1) <u>鉱業又は製造業の事業所の場合</u>、調査期間中に採掘、製造、その他の方法で生産した主要な生産品の名称を、種類、材料、用途、製造の設備・方法がわかるように記入します。

なお、製造業の事業所で、生産品を一般の消費者に小売することを主たる業務としている場合(パン製造小売など)は、そのことを明記してください。(産業分類が変わる可能性があります。)

- (2) <u>建設業の事業所の場合</u>、調査期間中に行った建設工事・設備工事のうち、 主要なものの名称を記入します。
- (3) <u>卸売業や小売業の事業所の場合</u>、卸売・小売の別、扱っている商品のうち主要品名を記入します。

- (4) <u>管理事務を行う本社・本店の場合</u>、管理する全事業所を通じての主要な 生産品又は事業の内容を記入し、管理事務のみを行っていることが分かる ように記入します。
- (5) <u>生産品又は営んでいる事業が二つ以上</u>あるときは<u>「主要なもの」</u>を次の ①、②の順位で定めます。
 - ① 過去1年間における総収入又は総販売数の最も大きなもの
 - ② 従事した労働者数の最も多いもの
- ※ 次表に「主要な生産品又は事業の内容」の書き方について一覧を掲載して いますのでご覧ください。

表「主要な生産品又は事業の内容」の書き方について

表「主要な生産品又は事業の内容」の書き方について										
事業の内容	記入するために必要な事項と注意	記 入 例								
鉱業を営んでいる	鉱物の種類及び試堀、採掘の別が	石炭石採掘								
場合	分かるようにする。	砂利採取								
		耐火粘土採掘								
建設業を営んでい	1 建築物の種類や工事の内容が	木造家屋建築工事(一								
る場合	分かるように記入する。	式)								
	2 工事一式か、部分的な専門工	大工工事、左官工事、								
	事かの別が分かるように記入す	タイル工事、電気配線								
	る 。	工事、集じん装置据付								
		工事								
物の製造、加工の	1 生産品の名称と用途	クレーン製造業(建設								
事業を営んでいる		用)								
場合		クレーン製造業(建設								
		用を除く)								
	2 完成品と部品の別	自動車部品製造								
	3 製造と修理の別	電気製品修理業								
	4 製造卸、製造小売、賃加工	菓子パン製造小売								
	の別									
	5 原材料の製造から一貫して製	木製建具製造卸								
	造しているか、購入原材料	びん用金属製口金製造								
	によるものかの別	(プレスのみ)								
		自動車エンジン製造								
		プラスチック製抵抗器								
		製造								
		プレス用金型製造								
L	i.									

事業の内容	記入するために必要な事項と注意	記 入 例
塗装業を営んでい	塗装品の種類と、塗装の目的①建	金属製ロッカー塗装業
る場合	設工事の一部か、②製造過程の一	看板製造
	部か、③修理のためか、④看板塗	(単純な加工を含む)
	装かが分かるように記入する。	船舶塗装業
		機械部品メッキ業
電気・ガス・水道	事業の種類や業態が分かるように	変電所、ガス供給所
業を営んでいる場	記入する。	下水処理事業
合		浄水事業
運輸業を営んでい	主な輸送機関の種類や、旅客・貨	タクシー業
る場合	物の別、特定・一般の別、有償・	一般旅客自動車運送業
	無償の別が分かるように記入す	貨物自動車による新聞
	る 。	運送業(有償)
		河川遊覧船
		電車区
商品を仕入れて御	1 取り扱っている商品名と卸売	酒、調味料小売
売又は小売を営ん 売り	か小売の別	
でいる場合	2 卸売と小売の両方を営んでい	各種食料品卸売・小売
	る場合はどちらが主か。	(小売が主)
	る場合はどちらが主か。 3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾	
		(小売が主)
	3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾	(小売が主) 各種食料品小売
	3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾 物、野菜、菓子など各種の食料	(小売が主) 各種食料品小売 日本標準産業分類小分
	3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾 物、野菜、菓子など各種の食料 品を小売している場合は「各種	(小売が主) 各種食料品小売 日本標準産業分類小分 類が3以上にまたがる
	3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾物、野菜、菓子など各種の食料品を小売している場合は「各種食料品小売」と記入する。	(小売が主) 各種食料品小売 日本標準産業分類小分 類が3以上にまたがる 場合「各種」となる。
	3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾物、野菜、菓子など各種の食料品を小売している場合は「各種食料品小売」と記入する。 4 取り扱う商品が種々雑多で、	(小売が主) 各種食料品小売 日本標準産業分類小分 類が3以上にまたがる 場合「各種」となる。
	3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾物、野菜、菓子など各種の食料品を小売している場合は「各種食料品小売」と記入する。4 取り扱う商品が種々雑多で、主なものをあげることができな	(小売が主) 各種食料品小売 日本標準産業分類小分 類が3以上にまたがる 場合「各種」となる。
	 3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾物、野菜、菓子など各種の食料品を小売している場合は「各種食料品小売」と記入する。 4 取り扱う商品が種々雑多で、主なものをあげることができない場合は、金物類、荒物類、洋 	(小売が主) 各種食料品小売 日本標準産業分類小分 類が3以上にまたがる 場合「各種」となる。
	3 酒、調味料、肉、鮮魚、乾物、野菜、菓子など各種の食料品を小売している場合は「各種食料品小売」と記入する。 4 取り扱う商品が種々雑多で、主なものをあげることができない場合は、金物類、荒物類、洋品類、文房具類小売というよう	(小売が主) 各種食料品小売 日本標準産業分類小分 類が3以上にまたがる 場合「各種」となる。

事業の内容	記入するために必要な事項と注意	記 入 例
	5 衣類の仕立を行っている場合	婦人服仕立(材料客持
	は、材料が店持ちか、客持ちか	ち)
	が分かるように記入する。	洋裁店(材料店持ち)
飲食業を営んでい	事業の種類や提供している料理の	中華料理、純喫茶、バ
る場合	種類などが分かるように記入す	ー、ドライブイン、そ
	る。注文料理による持ち帰り、又	ば屋、持ち帰り寿司、ピ
	は配達専門であることが分かるよ	ザ(配達専門)
	うに記入する。	
金融・保険業を営	事業の種類や業態が分かるように	銀行
んでいる場合	記入する。	信用金庫
		証券業
		生命保険
		損害保険
不動産業を営んで	不動産業で、建売及び土地売買を	建売(自ら建築をしな 、
いる場合	行っている場合は、自ら建築施工	(1)
	あるいは労働者を雇用し土地造成	土地分譲(自ら土地造
	をしているか否かが分かるように	成をしない)
	記入する。	貸事務所
		不動産管理
		不動産仲介
 修理業を営んでい	修理品の種類が分かるように記入	ミシン修理業
る場合	する。	こうり
3 · 8 I	, , ,	テレビ修理業
		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
		<u> </u>

事業の内容	記入するために必要な事項と注意	記入例
協同組合、森林組	事業の内容や業態が分かるように	農業協同組合(共済事業
合、事業協同組合	記入する。	の他各種事業を行うも
の場合	信用事業又は共済事業を行ってい	の)農業協同組合(信用
	る場合は分かるように記入する。	事業のみ)
	それ以外は主要な活動が分かる	織物協同組合(購買事業
	ように記入する。	の他各種事業を行うもの
宿泊施設、理髪、	行っている事業の種類が分かるよ	旅館、共済組合宿泊所、
浴場業を営んでい	うに記入する。	理髮店、美容院、公衆
る場合		浴場、サウナぶろ業
医療業を営んでい	病院や医院の場合は、その専門と	内科医院・診療所(19
る場合	病床数が分かるように記入する。	床以下)
		病院(20床以上)
各種学校、専修学 	洋裁学校、自動者教習所などの場	洋裁学校(認可あり)
校 (専門学校を含 	合は、各種学校の認可を得ている	自動者教習所(認可あ
む)を営んでいる	かどうかが分かるように記入する。	り)
場合		│ タイピスト学校(認可 │
		なし)
		料理学校(認可なし)
		425 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1
物品の賃貸業を営	物品の賃貸をしている場合は、賃	│ 貸植木業、貸衣しょう │ _₩
んでいる場合	貸する物品の種類が分かるように	
	記入する。	自動車リース業
		│ 建設用クレーン賃貸業 │
 娯楽、その他サー	 事業の種類や業態が分かるように	 会計士事務所、ビル清
娯楽、その他り一 ビス業を営んでい	事業の種類や素態が方がるように 記入する。	云前 エ 争 物 所 、 こ ル 계
る場合	нол 7 .00	請求、利国公古代理求、 観光案内業、パチンコ
(V·勿口		観光泉内泉、ハデンコ 店 、 ボ ウ リ ン グ 場

事業の内容	記入するために必要な事項と注意	記 入 例
管理事務のみを行	管理事務を行う本社・本店など	土木工場業(管理事務)
っている場合	は、管理下にある事業所の事業の	医薬品卸売業(管理事
	内容を記入するとともに管理事務	務)
	のみを行っていることが分かるよ	合板製造業(管理事務)
	うに記入する。	

3 調査期間はいつからいつまででしたか。

- (1) 調査期間は、原則として調査月(7月)の1日から月末までの1か月間とします。
- (2) 給与締切日の定めがある場合は、調査期間は、6月の給与締切日の翌日から7月の給与締切日までとします。
 - 例) 給与締切日が20日の事業所→7月分の調査期間:6月21日~7月20日
- (3) 労働者によって、給与締切日が異なる場合は、適用する労働者の最も多い給与締切日から定まる期間を調査期間とします。
- (4) 週給制により給与を算定する事業所の場合は、調査期間が月によって4 週間分又は5週間分となることがあります。

4 調査期間末日の常用労働者数は何人でしたか。

労働常用者数については、事業所に在籍する者であって、その月に病気その他の理由で全く出勤できなくても、事業所から何らかの給与が支給される者は算入します。また、他の企業より出向している場合、出向先事業所の組織に組み込まれ就業規則等の適用を受けているときは、その事業所の常用労働者とします。

しかし、支給を受けている手当、その他の金銭が法律の規定に基づく災害補償給付あるいは労災保険給付のみの者は常用労働者数から除きます。その月の最終給与締切日に退職した者も労働者数に含めません。また、労働者派遣法により他から派遣されている労働者も労働者数に含めません。

5 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当する番号を〇で囲んでください。

貴事業所が個人経営の場合には同一経営者に属する事業所全部について、 また、貴事業所が属する企業がある場合は企業全体の常用労働者数を記入し ます。それぞれ雇用される常用労働者数の総数が、30人以上か、5~29人か、 1~4人かを調査します。例えば、全国各地に支社、支店あるいは分工場等をもっている大会社の場合は、本社をはじめそれらの支社、支店、分工場で働いている労働者全部を合計した数によって当該番号を〇で囲みます。

注 意

- ア 官公営及び地方公共団体に所属する事業所は、いずれも企業規模は 30 人以上となります。(公立小学校、公立保育園等。)
- イ 独立採算制をとっていても、同一法人又は個人経営者に属していれば同 一企業となります。(〇〇営業所、〇〇支社と名称がなっているものは注意 すること。)

常用労働者に関する事項



1 氏名又は符号

この欄には、それぞれの常用労働者について、符号(A、B、C、D等、個人を識別するもの)を記入しかつ常用労働者の符号を記入した欄の番号を〇で囲みます。なお、符号の代わりに氏名を用いてもかまいません。

2 性

この欄は該当する番号を〇で囲んでください。

3 通勤・住込みの別

この欄は該当する番号を〇で囲んでください。

住込み者とは

家族労働者であるかどうかを問わず、事業所の構内又は事業主の住宅内に 住んでいて、常態として食事の提供を受けている者をいいます。ただし、こ のうち次の者は住込み者とはしません。

- (1) 食費及び部屋代(光熱費などを含む)の双方を支払っている者。
- (2) 寮、寄宿舎など独立した建物に居住していて食費を払っている者。

通勤者とは

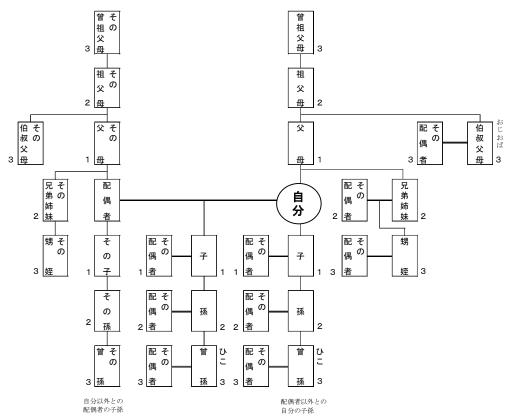
住込み者に該当しないすべての者です。

4 家族労働者であるかどうかの別

該当する番号を〇で囲んでください

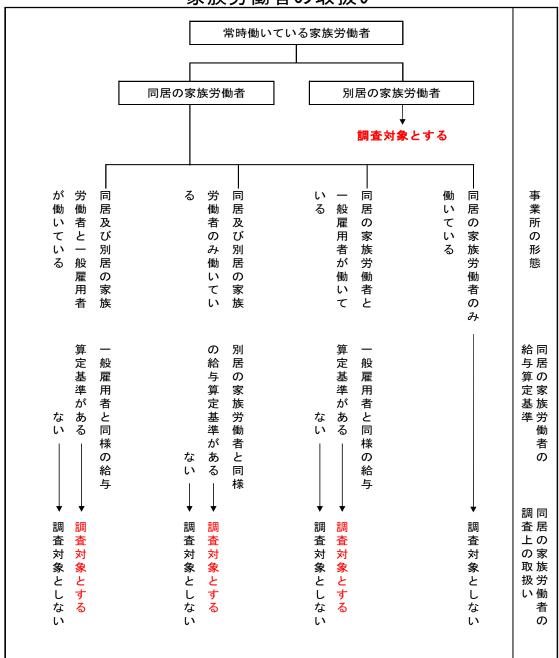
家族労働者とは

個人営業事業所では個人事業主、法人組織事業所では実質的にその法 人を代表する者(通例は社長)の配偶者、3親等以内の親族及びその配 偶者をいいます。



親族(3親等以内)の範囲

家族労働者の取扱い



(注) ここで同居とは、「事業主と世帯を同じくして生計を共にしている」ことをいい、 別居とは「事業主と世帯を異にしているかいないかに関わらず生計を別にしている」ことをいう。

5 年 齢

この欄には、令和6年7月の最終給与締め切り日現在の満年齢を記入してください。

ア 1歳未満は切り捨てます。

イ 満年齢の算定は、次頁の「満年齢早見表」をご覧ください。

満年齢(勤続年数)早見表

令和6年用

出 性 年 「													
大正15 1926 98 昭和34 1959 65 平成4 1992 32 32 1927 97 35 1960 64 5 1993 31 31 31 928 96 36 1961 63 6 1994 30 4 1929 95 37 1962 62 7 1995 29 5 1930 94 38 1963 61 8 1996 28 6 1931 93 39 1964 60 9 1997 27 7 1932 92 40 1965 59 10 1998 26 8 1933 91 41 1966 58 11 1999 25 9 1934 90 42 1967 57 12 2000 23 11 1936 88 44 1969 55 14 2002 22 12 12 1937 87 45 1970 54 15 2003 21 13 1938 86 46 1971 53 16 2004 20 14 1939 85 47 1972 52 17 2005 19 15 1940 84 48 1973 51 18 2006 18 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 28 1953 71 61 986 38 44 1969 55 196 20 2008 16 22 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 2009 15 19 1944 80 55 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 76 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{44}{949} 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 76 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{44}{949} 75 57 1982 42 27 2015 9 207 77 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{44}{949} 75 57 1982 42 27 2015 9 201 77 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{44}{949} 75 57 1982 42 27 2015 9 201 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70 70	出生年		年 齢	出	生	年		年 齢	出	生	年		年 齢
2 1927 97 35 1960 64 5 1993 31 31 31 31 1928 96 36 1961 63 6 1994 30 4 1929 95 37 1962 62 7 1995 29 5 1930 94 38 1963 61 8 1996 28 6 1931 93 39 1964 60 9 1997 27 7 1932 92 40 1965 59 10 1998 26 8 1933 91 41 1966 58 11 1999 25 9 1934 90 42 1967 57 12 2000 24 10 1935 89 43 1968 56 13 2001 23 11 1936 88 44 1969 55 14 2002 22 12 1937 87 45 1970 54 15 2003 21 13 1938 86 46 1971 53 16 2004 20 14 1939 85 47 1972 52 17 2005 19 15 1940 84 48 1973 51 18 2006 18 16 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 201 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 20 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38	(入職年)	西暦	(勤続年数)	(入	職	年)	西暦	(勤続年数)	(入	職	年)	西暦	(勤続年数)
2 1927 97 35 1960 64 5 1993 31 31 31 31 1928 96 36 1961 63 6 1994 30 4 1929 95 37 1962 62 7 1995 29 5 1930 94 38 1963 61 8 1996 28 6 1931 93 39 1964 60 9 1997 27 7 1932 92 40 1965 59 10 1998 26 8 1933 91 41 1966 58 11 1999 25 9 1934 90 42 1967 57 12 2000 24 10 1935 89 43 1968 56 13 2001 23 11 1936 88 44 1969 55 14 2002 22 12 1937 87 45 1970 54 15 2003 21 13 1938 86 46 1971 53 16 2004 20 14 1939 85 47 1972 52 17 2005 19 15 1940 84 48 1973 51 18 2006 18 16 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 201 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 20 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38	大正15	1926	98		昭	和34	1959	65			平成4	1992	32
1929 95 37 1962 62 7 1995 29	P日イロノし 2	1927	97			35	1960	64			5	1993	31
5 1930 94 38 1963 61 8 1996 28 6 1931 93 39 1964 60 9 1997 27 7 1932 92 40 1965 59 10 1998 26 8 1933 91 41 1966 58 11 1999 25 9 1934 90 42 1967 57 12 2000 24 10 1935 89 43 1968 56 13 2001 23 11 1936 88 44 1969 55 14 2002 22 12 1937 87 45 1970 54 15 2003 21 13 1938 86 46 1971 53 16 2004 20 14 1939 85 47 1972 52 17 2005 19 15 1940 84 48 1973 51 18 2006 18 16 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38	3	1928	96			36	1961	63			6	1994	30
6 1931 93 39 1964 60 9 1997 27 7 1932 92 40 1965 59 10 1998 26 8 1933 91 41 1966 58 11 1999 25 9 1934 90 42 1967 57 12 2000 24 10 1935 89 43 1968 56 13 2001 23 11 1936 88 44 1969 55 14 2002 22 12 1937 87 45 1970 54 15 2003 21 13 1938 86 46 1971 53 16 2004 20 14 1939 85 47 1972 52 17 2005 19 15 1940 84 48 1973 51 18 2006 18 16 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 31 1956 68 1965 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 1965 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 1965 10 10 10 10 10 10 10 1	4	1929	95			37	1962	62			7	1995	29
7 1932 92 40 1965 59 10 1998 26 8 1933 91 41 1966 58 11 1999 25 9 1934 90 42 1967 57 12 2000 24 10 1935 89 43 1968 56 13 2001 23 11 1936 88 44 1969 55 14 2002 22 12 1937 87 45 1970 54 15 2003 21 13 1938 86 46 1971 53 16 2004 20 14 1939 85 47 1972 52 17 2005 19 15 1940 84 48 1973 51 18 2006 18 16 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38	5	1930	94			38	1963	61			8	1996	28
8 1933 91 41 1966 58 11 1999 25 9 1934 90 42 1967 57 12 2000 24 10 1935 89 43 1968 56 13 2001 23 11 1936 88 44 1969 55 14 2002 22 12 1937 87 45 1970 54 15 2003 21 13 1938 86 46 1971 53 16 2004 20 14 1939 85 47 1972 52 17 2005 19 15 1940 84 48 1973 51 18 2006 18 16 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38	6	1931	93			39	1964	60			9	1997	27
9	7	1932	92			40	1965	59			10	1998	26
10 1935 89 43 1968 56 13 2001 23 11 1936 88 44 1969 55 14 2002 22 12 1937 87 45 1970 54 15 2003 21 13 1938 86 46 1971 53 16 2004 20 14 1939 85 47 1972 52 17 2005 19 15 1940 84 48 1973 51 18 2006 18 16 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\text{\tex	8	1933	91			41	1966	58			11	1999	25
11	9	1934	90			42	1967	57			12	2000	24
12 1937 87	10	1935	89			43	1968	56			13	2001	23
13	11	1936	88			44	1969	55			14	2002	22
14	12	1937	87			45	1970	54			15	2003	21
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	13	1938	86			46	1971	53			16	2004	20
16 1941 83 49 1974 50 19 2007 17 17 1942 82 50 1975 49 20 2008 16 18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 1007	14	1939	85			47	1972	52			17	2005	19
17	15	1940	84			48	1973	51			18	2006	18
18 1943 81 51 1976 48 21 2009 15 19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38	16	1941	83			49	1974	50			19	2007	17
19 1944 80 52 1977 47 22 2010 14 20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{31}{2}\$ 2019 5 29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 平成元 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	17	1942	82			50	1975	49			20	2008	16
20 1945 79 53 1978 46 23 2011 13 21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{\tau}{\tau}\overline{\tau}\o	18	1943	81			51	1976	48			21	2009	15
21 1946 78 54 1979 45 24 2012 12 22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{\text{AnT}}{\text{mT}}\$ 2019 5 29 1954 70 62 1987 37 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 \$\frac{\text{MT}}{\text{mT}}\$ 1989 35 4 </td <td>19</td> <td>1944</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> <td>52</td> <td>1977</td> <td>47</td> <td></td> <td></td> <td>22</td> <td>2010</td> <td>14</td>	19	1944	80			52	1977	47			22	2010	14
22 1947 77 55 1980 44 25 2013 11 23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{\tau}{\tau\pi\pi}\$ 2019 5 29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 \frac{\text{MLZ}}{\text{MLZ}} 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34	20	1945	79			53	1978	46			23	2011	13
23 1948 76 56 1981 43 26 2014 10 24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{31}{\text{PMT}}\$ 2019 5 29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 \text{\text{PMT}} 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	21	1946	78			54	1979	45			24	2012	12
24 1949 75 57 1982 42 27 2015 9 25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{311}{\text{PMT}}\$ 2019 5 29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 \text{\text{MT}} 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	22	1947	77			55	1980	44			25	2013	11
25 1950 74 58 1983 41 28 2016 8 26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{31}{\tau\pi}\$ 2019 5 29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 \textstyle{\textstyle{\textstyle{\textstyle{1}}}} 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	23	1948	76			56	1981	43			26	2014	10
26 1951 73 59 1984 40 29 2017 7 27 1952 72 60 1985 39 30 2018 6 28 1953 71 61 1986 38 \$\frac{\text{31}}{\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$\text{\$2019}\$}\$}}}\$ 5 29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 \text{\$\	24	1949	75			57	1982	42			27	2015	9
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	25	1950	74			58	1983	41			28	2016	8
28 1953 71 61 1986 38 分和元 2019 5 29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 平成元 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	26	1951	73			59	1984	40			29	2017	7
28 1953 71 61 1986 38 令和元 2019 5 29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 平成元 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	27	1952	72			60	1985	39				2018	6
29 1954 70 62 1987 37 2 2020 4 30 1955 69 63 1988 36 3 2021 3 31 1956 68 平成元 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	28	1953	71			61	1986	38		4		2019	5
31 1956 68 平成元 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	29	1954	70			62	1987	37		'		2020	4
31 1930 68 平成元 1989 35 4 2022 2 32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	30	1955	69				1988	36			3	2021	3
32 1957 67 2 1990 34 5 2023 1	31	1956	68		平	64 成元	1989	35			4	2022	2
33 1958 66 3 1991 33 6 2024 0	32	1957	67		'	2	1990	34			5	2023	1
	33	1958	66			3	1991	33			6	2024	0

⁽注) この表は、誕生日(入職日)を基準としますので、令和6年7月の最終給与締切 日現在で誕生日(入職日)がまだきていない人は、上の「満年齢(勤続年数)早見表」 の年齢(勤続年数)から「1」を引いてください。

6 勤続年数

この欄には、令和6年7月の最終給与締切日現在の勤続年数を記入して ください。

ア 1年未満は切り捨てます。

- イ 企業の名義変更、分割、合併などによって名称が変わり、形式的な解雇、 再雇用の手続きが行われたことがあっても、雇用が実質的には継続して いる場合は通算します。
- ウ 試用期間、見習の期間、再雇用及び同一企業内からの転勤者の以前の雇 用期間はそれぞれ通算します。
- エ 休職期間は有給、無休にかかわらず、すべて除きます。

7 出勤日数

祝祭日、有給休暇に関係なく、常用労働者が使用者の指揮監督の下で事業 活動に従事するために実際に就業した日数のことです。

そのため、給与の算定を受けていても、<u>実際に就業しなかった日は含めません。</u>例えば、有給休暇は給与の支払対象ですが、出勤日数には計上しません。また、病気・療養・育児などの理由で出勤しなかった日についても、給与の算定を受けていたとしても出勤日数には計上しません。

常用労働者各々について、調査期間中に1時間でも就業した日数を算出し、 記入欄ごとに記入します。

<出勤日の数え方について>

- 1時間でも就業すれば、1出勤日とします。
- ・2暦日にわたって働いた場合、出勤日数は2出勤日とします。
- ・1日に二度出勤した場合は、1出勤日とします。
- ・出張、外勤や在宅で勤務した日も出勤日数に含めます。

8 1日の実労働時間数

調査期間中における、通常日の実労働時間数*を記入してください。

実際に働いた労働時間数で、早出時間、残業時間、手待時間も含んだものです。ただし、休憩時間は除かれます。

*使用者の指揮監督下にある労働時間のことです。病休、有給休暇の取得、 欠勤、操業・営業時間の短縮による自宅待機など、給与算定の有無やその 理由を問わず、実際に当該事業所の事業活動に従事しなかった時間は含め ません。(使用者の指揮監督から解放される休憩時間も含めません。)

注意

- ア 日々労働時間が異なる場合は、7月分としての総実労働時間数を出勤日 数で除し、1日平均を計算してください。
- イ 本来の業務外として行われる宿・日直の時間は除きます。
- ウ 住込み者や家族労働者が、本来の業務以外(家事・私用に従事するなど) に従事した時間は除きます。
- エ 守衛など、断続的労働に従事する労働者は、手待時間を含めた拘束時間を 記入してください。運輸関係労働者によくみられる、詰所での待機時間、運 転の交替要員として助手席で待機する手待時間も同様に実労働時間数に含 めてください。
- オ 鉱業における坑内労働者の場合は、坑口に入った時刻から出てくる時刻 までを実労働時間とします。
- カ 1時間未満の端数は、30分以上は切り上げ、30分未満は切り捨ててください。

9 きまって支給する現金給与額

この欄には、調査期間中の給与として算定された「きまって支給する給与」 がいくらだったか、100 円未満を四捨五入して記入します。

「きまって支給する現金給与額」とは、労働契約や、事業所の給与規則等に よってあらかじめ定められている支給条件、算定方法によって毎月同じよう に支給する給与のことで次のようなものです。

基本給、年齢給、職務給、地域手当、家族手当、役付手当、現金出納手当、 精勤手当、超過勤務手当(早出、残業手当)、宿·日直手当、深夜業手当、休 日出勤手当、出来高給、休業手当、通勤手当、特殊勤務手当

調査期間(最終給与締切日が7月となる1か月分の給与算定期間)中の<u>給与として算定される金額を記入する</u>のであって、必ずしも調査期間中に現実に支払った金額を記入するものではありません。

現金給与とは、賃金、給料、手当、賞与などの名称を問わず労働の対償(雇用契約に基づき行う労働に対しての報酬)として、使用者が常用労働者に通貨で支払うもの(税込み)をいいます。

注 意

- ア 出来高給の場合、1か月を超える期間ごとに精算が行われることになっていて、その間の各月は概算払が行われることがありますが、その場合には、7月の概算額を記入してください。7月の精算額が確定している場合は7月分の精算額も含めた額を記入してください。
- イ 超過勤務手当や奨励加給が実際の労働した月よりも1月遅れて算定されることがありますが、このような場合は7月に算定された分のみを算入してください。
- ウ 重役報酬・役員手当等は、原則として「きまって支給する現金給与額」に 含まれません。しかし、重役、理事などの役員や支店長、出張所長など事業 所の幹部でも、常時、事業所に出勤して一定の職務に従事し、利潤配分とし ての報酬(重役賞与)以外に一般雇用者と同じ給与規則又は同じ基準で毎月 給与が算定されている場合は報酬と給与を分離して給与のみを記入してく ださい。
- エ 通勤手当や精勤手当等で2か月又は3か月ごとにまとめて算定されるものについては、算定月が7月の場合は7月の給与に含めます。ただし、3か月を超える期間ごとに算定されるものは、「特別支払われた現金給与額」となりますので「きまって支給する現金給与額」には含めないでください。
- オ きまって支給する現金給与額に含めるものと含めないものについては、 次の点に注意してください。

含めるもの 含めないもの ○ 労働者が負担する所得税、社会保険料、諸 ○ 3か月を超える期間ごとに算定される手当 掛金、組合費などの諸経費(従って「き (通勤手当(6か月定期)、寒冷地手当) まって支給する現金給与額」はいわゆる手 〇 離職した労働者の退職金、解雇予告手当 取額ではなく、これらの控除前の額) 児童手当法に基づく児童手当 〇 労働者が負担すべき税金、社会保険料(雇 ○ 労働基準法及び労働者災害補償保険法にき 用保険料、健康保険料、厚生年金保険料な められている災害補償給付 ど)で事業主が代わって負担しているも ○ 恩恵的給付(吉凶禍福に際して支給される の。 明らかに恩恵的であるとみられる金銭) 〇 出張旅費などの実費弁償 〇 現物給与の評価額 〇 「年末調整」による還付金 〇 従業員が任意に加入する生命保険や財形貯 蓄に対する補助金 ○ 旅館の従業員等が客より受けるチップ

※ 調査票に記入する現金給与額は、税込の総支給額(労働者が負担すべき所 得税、住民税、社会保険料などを含めたもの)です。

10 昨年の8月1日から今年の7月31日までに特別に支払われた現金給与額

この欄には、令和5年8月1日から令和6年7月31日までの1年間に毎月きまって支給する給与以外に現金で支払われた特別給与の合計額を記入してください。年間に支払われた全給与額を記入しないよう注意してください。

特別に支払われた現金給与とは

- ア 労働協約、就業規則等によらないで、一時的又は突発的理由に基づい て労働者に支払われた現金給与。
- イ 労動協約、就業規則等の定めにより支給された現金給与のうち以下 a ~ d に該当するもの。
 - ※ただし、いずれも、減額・返納分(負の値)は調査票には計上しません。
 - a 夏・冬の賞与、期末手当等の一時金 (賞与とは、定期又は臨時に労働者の勤務成績、経営状態等に応じて 支給され、その額があらかじめ定められていないもの。)
 - b 3か月を超える期間で算定されるもの (6か月分支払われる通勤手当や6か月分の寒冷地手当など。)
 - c 支給事由の発生が不確定なもの
 - (一時的・突発的に支払われたもので、支給する条件は決まっているが、支給事由の発生が極めて不確定でかつ非常にまれに発生するもの。結婚手当や出産祝金を含む慶弔費など。)
 - d 労働協約、就業規則等の改訂によって過去にさかのぼって算定された 給与の追給分(ベースアップ、定期昇給を問いません。)

(例えば、7月に労働協約等を改訂する協定が成立し、7月中に4月に遡って新賃金が支給された場合、4月~6月分の差額については、「特別に支払われた現金給与額」欄に記入し、7月分の増額分は「きまって支給する現金給与額」欄に算入します。)

注 意

- ア 法律に定められた諸給付金や退職金は含めないでください。
- イ 100円未満は四捨五入してください。

Ⅳ 調査票の記入を終えて

1 内容の確認

調査票の記入が終わりましたら、もとになる帳簿や前月分の報告数字と照らし合わせて、以下のア~ウ及び次ページの「調査票確認事項」に従い、<u>記入</u>誤り(内容や記入先)や記入漏れがないかどうかを確認してください。

- ア 記入すべき事項を全部記入したか。
 - ・事業所名及び電話番号を記入しているか。
 - ・主要な生産品又は事業の内容、調査期間、調査期間末日の常用労働者数、 企業の全常用労働者数は正しく記入されているか。
 - ・常用労働者数に応じて常用労働者の状況の欄に〇又は数値を記入しているか。
- イ 「Ⅲ 調査票の記入の仕方」によって定められた方法で正確に記入しているか。
 - ・きまって支給する現金給与額は 100 円未満を四捨五入して記入しているか、全て又は一部の記入欄で桁ズレして記入していないか、全ての常用労働者分の給与額を記入しているか。
 - ・特別に支払われた現金給与額は 100 円未満を四捨五入して記入しているか、全て又は一部の記入欄で桁ズレして記入していないか、全ての常用労働者分の給与額を記入しているか。支給がない場合はO「ゼロ」を記入しているか。

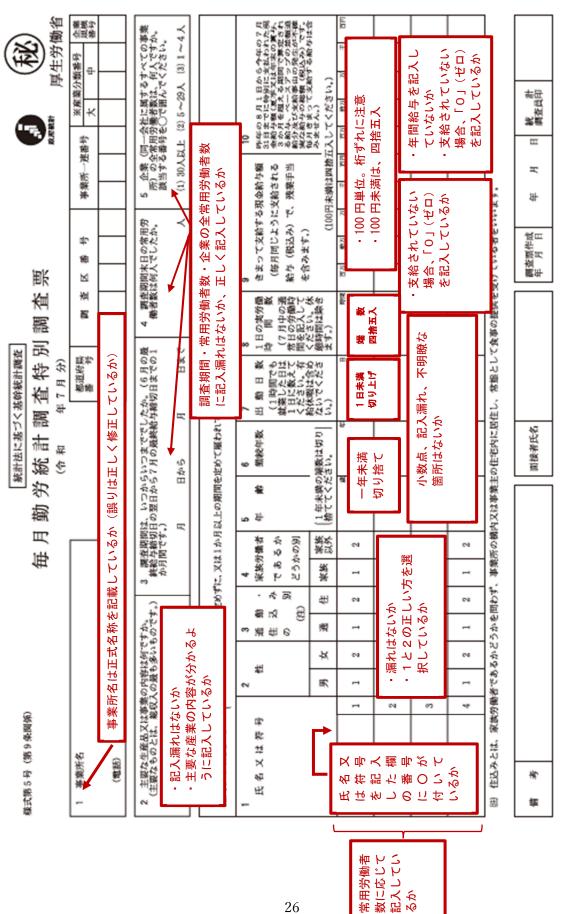
2 調査票の提出

記入内容の確認が終わった調査票は、9月10日までにご提出をお願いします。

3 照会

提出いただいた調査票について疑義が生じた場合は、文書又は電話等によって照会することがあります。

調査票確認事項



∨ 質疑応答集(調査票記入上の質疑解釈)

(設 問) (回 答)

感染症対策関連

- 1 新型コロナウイルス等の感染症対策と として職員は自宅待機をしており 給与は支給されているが、出勤日数 及び実労働時間はどのように計上 したらよいか。
- 1 出勤日数及び実労働時間をO「ゼロ」 時間と計上し、きまって支給する現金 給与額は支給額をそのまま計上して ください。

常用労働者について

- 2 営業所において、従業員のうちに本 社で給与が算定される者と、営業所 で給与が算定される者がまざって就 業している場合、労働者数には本社 所属の者も常用労働者数に含めるの か。
- 3 病気などのため、調査期間中1日 も出勤しなかった者は常用労働者数 に計上しなくてもよいか。
- 4 事業主の家族で、事業の繁忙のとき手伝うというような者は常用労働者となるか。
- 5 保険会社で保険契約の募集勧誘に 従事する職員は、その所属保険会社 との間に雇用関係の性格がはっきり しない場合が多いが、本調査の労働 者としてどのように取り扱ったらよ いか。
- 6 新聞配達店に満15歳未満の学童が 配達員として朝、夕、働いている場 合、常用労働者とするか。

- 2 給与が本社で算定されていても、 一定期間、営業所のみで就業してい る者はすべて含めます。
- 3 その者に対して、何の給与も支給されていない場合は除外してください。 しかし、長期療養者であっても何らかの給与が支給されていれば、常用労働者数に計上してください。
- 4 一般労働者と同じように1か月以上の期間働く約束であるか等の区別によって、常用かそうでないかを定めてください。この場合、給与の算定を受けていない者は、もちろん常用労働者ではありません。
- 5 募集勧誘に従事する職員が所属会 社と雇用契約によって雇用され、な おかつ出社退社などの勤務条件が就 業規則によってきめられている者は 常用労働者に含め、それ以外の者は 対象としません。
- 6 常用労働者として年齢、給与、労働時間その他の調査事項についてありのままを記入してください。

(設 問)

(回答)

通勤、住込みの区分について

- 7 事業所から離れた事業主宅に居住 し、食事の支給を受けている常用労 働者は住込み者となるか。
- 8 数人の事業主が共同出資している 宿泊センター又は事業主が借り入れ たアパートに居住し、かつ、住居費、 食費双方を事業主が負担している労 働者は住込み者となるのか。
- 9 同居(事業主と世帯を同じくして生計を 共にしている)の家族労働者は住込み 者となるのか。

- 7 事業主宅と事業所とが相当離れて おり、たとえその間を交通機関を利 用して通勤していても、事業主宅に 居住し食事の支給を受けている者は 住込み者となります。
- 8 このような宿泊センター又はアパートに居住する常用労働者は、たとえその宿泊センター又はアパートが事業所の至近距離にあり、住居費、食費双方を事業主が負担していても、住込み者ではありません。
- 9 事業所の構内又は事業主の住宅内に住んでいて給食を受けていれば住込み者となりますが、生計を別にしていれば住込み者ではありません。また、事業所から離れた事業主宅から通勤している家族労働者は住込み者となりますが、事業主宅以外の住居から通勤している家族労働者は通勤者となります。

出勤日数、労働時間について

- 10 タクシー運転手の勤務時間が、午前8時から翌日の午前8時までの24時間で、隔日勤務と決められている場合、出勤日数はどうとらえるか。
- 11 三交替制をとる工員が7月1日から3日までの間に次の勤務を行った。 出勤日数は何日となるか。

7月1日 午前8時~午後4時 7月2日 午前0時~午前8時 "午後4時~午後12時 7月3日 明け番

- 10 出勤1日とは午前0時から午後12 時までの間に1時間以上働くことをいいます。したがって設問の場合は、勤務時間が2暦日にわたっているので、1回の勤務で出勤日数は2日と計算されます。
- 11 前問の原則による各出勤日の勤務 時間は

7月1日 … 8時間

7月2日 … 8時間+8時間=

16時間

7月3日 …0

となり、出勤日数は1日と2日の2

(設 問)

- 12 日によって勤務時間の異なる勤務 割によって就労する場合、「1日の 実労働時間数」はどのように記入す
- 13 次のような労働時間数の把握が困難な場合の労働時間の算定は、どうしたらよいか。

るか。

- (1)7月中の全期間中出張していた社 員で、労働時間が正確に把握できな い場合。
- (2) 業界通信を営む事業所で、取材に あたる記者がほとんど事業所以外で 働き、労働時間を把握が困難な 場合。
- ※ (1)、(2)とも勤務についての別段の 指示はしていない。
- 14 守衛のように監視又は断続的労働に従事する労働者が、行政官庁の許可を受けて次のように勤務する場合、「1日の実労働時間数」はどのように記入したらよいか
 - (1) 始業午前6時、終業午後6時の拘束12時間の勤務に従事している場合。
 - (2) 一昼夜交替の24時間勤務(交替時間午前8時)の場合

(回答)

日間と計算されます。

なお、1日のうちに数回断続し、または2回の勤務が前後にある場合でも、出勤日数は1日ですから、1か月の出勤日数が暦日数を上回ることは決してありません。

- 12 7月中の延実労働時間数を求め、 これを出勤日数で除した時間を記入 してください。
- 13 (1)、(2)とも通常の労働時間(所定 内労働時間)労働したものとみなし、 通常の労働時間(所定内労働時間)を 記入してください。

- 14 (1)監視又は断続的労働に従事する 場合は、手待時間が多いわけです が、これを含めた拘束時間(12時間)を記入してください。
 - (2) 一勤務出勤日数が2暦日となるので、24時間を2で除した12時間を記入します。

きまって支給する現金給与額、特別に支払われる現金給与額について

- 15 法令により労働者が負担する所得税、雇用保険料、健康保険料、厚生年金保険料などを使用者が負担する場合、きまって支給する現金給与額として計上するか。
- 15 きまって支給する現金給与額に計上してください。

(設 問)

- 16 出張旅費、日当は現金給与に計上するのか。
- 17 従業員に支出する香典、祝儀のようなものはどう取り扱うのか。

(回答)

- 16 出張旅費、日当は現金給与には計上しません。
- 17 就業規則、就業の定めなど(慣行も含む)に、はっきり支給条件、金額などがきめられている場合でも、突発的理由によるものは特別に支払われた現金給与とします。